

■社会貢献・連携事業／大学連携

伏見酒造組合と連携協力に関する協定を締結 酒蔵のある街づくりを推進



握手を交わす、山本源兵衛伏見酒造組合理事長(左)と楠見晴重学長

関西大学は、昨年12月2日、京都市伏見区の伏見酒造組合と連携協力に関する協定を締結した。地域との共生をめざす本学は、伏見酒造組合と歴史的・文化的資源の活用及び相互の交流を図り、教育・研究・社会貢献を推進する。調印式では、協定のきっかけとなった地下水に関わる同組合との受託研究をさらに深めるとともに、酒蔵のある特色ある街づくり、教育・文化振興等の分野でも協力し、活力あふれる地域づくりと大学の活性化に寄与することについて、研究代表者でもある楠見晴重学長と同組合の山本源兵衛理事長との間で改めて確認がなされた。

同受託研究は、酒造りに欠かせない「水」について、地下水保全や水質の適正管理等に関する研究を重ね、漸次成果をあげてきた。この伏見地区を含む京都盆地の地下水の調査によって、京都盆地の地下には、大きな「水瓶」の役割を果たしている岩盤があり、琵琶湖の水量に匹敵する211億トンもの地下水を貯留していることを導きだし、「京都水盆」と名付け、さらに広くその保全と活用に向けた研究を進めることになる。

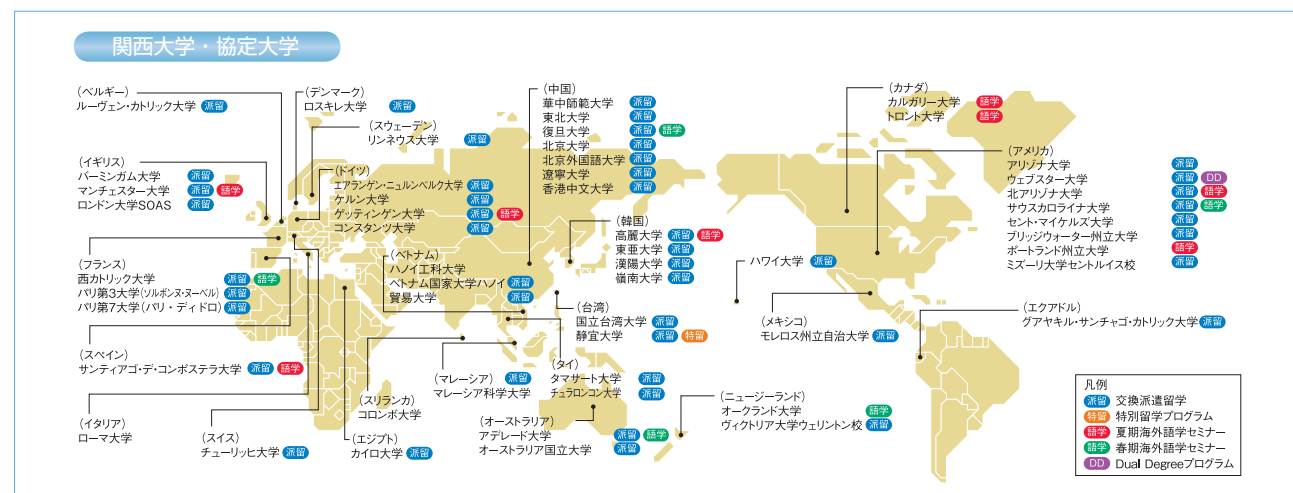
海外50大学と連携 — Globalizing Kandaiをめざして—

●ベトナム・ハノイ工科大学と国際交流に関わる基本協定を締結

関西大学は2005年より、国際化のいっそうの充実を図るため、「Globalizing Kandaiをめざして」というスローガンを掲げ、海外の50大学と協定締結することを目標に、世界各国から優秀な学生を集め、国際的なネットワークを構築。さらに多種多様なプログラムを提供し、本学学生を海外の大学や大学院へ積極的に派遣することで、世界に通用する人材育成に取り組んできた。そして、昨年11月25日、ハノイ工科大学と国際交流計画に基づき相互協力を行うことで合意に達し、これで協定締結校は50校目となった。ベトナムの大学との協定締結はこれで3校目。今後は、

それぞれの大学における研究・教育を推進し、かつ、この交流計画の実施によって、それぞれの研究者間・学生間の相互理解が増進されることを目的に、研究者、学生、学術情報及び資料の交換などを行う。

ハノイ工科大学は、1956年、ベトナム初の国立工科大学として創立。以来、エンジニアの訓練機関や国の工業部局のほぼ全てに対する科学研究機関としての役割を担っている。国際連携にも積極的に取り組んでおり、日本を含める諸外国の大学、研究機関、企業と連携している。



88th ALL JAPAN HIGH SCHOOL SOCCER TOURNAMENT

「月まで走れ！一高サッカー部」をスローガンに 関大一高サッカー部が全国大会で活躍！

第88回全国高校サッカー選手権大会で、関西大学第一高等学校が全国第3位に輝いた。関大一高が本大会に出場するのは10年ぶり3回目。これまでの大会では初戦敗退が続いており、今大会のチーム目標は「まず1勝」だった。しかし、初戦の鹿島(茨城)に勝ったことで勢いにのり、八千代(千葉)、藤枝明誠(静岡)を破り、大阪勢として32大会ぶりの4強入りを果たした。

1月9日、関大一高にとって初の東京・国立競技場で行われた準決勝では、生徒をはじめ保護者や同窓生ら約700人の大声援に支えられ、青森山田(青森)と対戦。球際の強さと豊富な運動量を誇る関大一高は、0-2で青森山田にリードを許すものの終盤で試合を支配し、久保綾祐さん、井村一貴さんの連続得点により、試合を振り出しに戻した。PK戦では涙をのんだが、持てる力を存分に出し切った見事な試合に、応援席からの拍手とねぎらいの言葉は途切れることがなかった。



ボールを奪い合う水田選手(青森山田戦)

■社会貢献・連携事業／産官学連携

●第14回先端科学技術シンポジウムを開催



1月28・29日の2日間、千里山キャンパスにて、関西大学先端科学技術推進機構主催の第14回先端科学技術推進機構シンポジウムが、社会連携部共催、近畿

経済産業局、関西大学科学技術振興会の後援により開催された。期間中は、シンポジウムなどを通じて、平成21年度の関西大学の先端科学技術に係る研究成果が広く企業・産業界、大学、官公庁・自治体、一般を対象に公開された。

特別講演はNPO法人環境・エネルギー・農林業ネットワーク理事長・京都大学名誉教授の芦田謙氏による「21世紀は資源争奪の時代—持続可能・地方分散型社会の建設に向けて—」。各会議室では、研究者、院生等による「新物質・機能素子・生産技術(N)」「情報・通信・電子(I)」「生命・人間・ロボティクス(B)」「環境・エネルギー・社会(E)」の4研究部門と研究プロジェクトによる研究発表が行われた。本年は、例年にも増して、企業、官公庁からの参加が増え、約1,000人が来場。盛会裡に終了した。

●ICIS第3回国際シンポジウムを開催

関西大学は平成19年度、グローバルCOE文化交渉学教育研究拠点(ICIS)に選定され、以来、「東アジア文化交渉学」の世界的拠点形成のために活動を行っている。



その一環として、文化交渉学の意義と可能性について様々

な角度からの検討を目的とするICIS第3回国際シンポジウムが、1月23日、千里山キャンパスにて開催された。テーマは「文化交渉としての宣教・布教—近代以降の新しい趨勢」。開会挨拶はICIS拠点リーダーの陶徳民教授。約100名の参加者が、国立民族学博物館教授の中牧弘允氏、北海道大学名誉教授の土屋博氏、復旦大学アメリカ研究センター教授の徐以驊氏による特別講演等に熱心に耳を傾けた。

●社会安全学部開設シンポジウムを開催

今年4月、関西大学はJR高槻駅前の高槻ミュージックキャンパスに、「安全」「安心」な社会の構築に貢献できる人材を育成するため、「社会安全学部 安全マネジメント学科」と「大学院社会安全研究科 防災・減災専攻」を開設する。昨年12月5日、千里山キャンパスにて、新学部の開設を記念するシンポジウム「時間と安全—安全・安心を時間の視角から科学する—」が開催された。当日は社会安全学部長に就任予定の河田恵昭教授による開会挨拶に始まり、JR福知山線の脱線事故、阪神・淡路大震災、ボイラー破裂、災害時における瞬時の判断などをテーマに、京都大学防災研究所巨大災害研究センターの林春男センター長と社会安全学部就任予定者4名による講演が行われ、全国各地から約850人が来場した。

●人間健康学部が認可

関西大学堺キャンパスに開設予定の「人間健康学部」が、昨年12月24日付けで文部科学省の認可を受けた。「人間健康学部」は、地域コミュニティにおいて活動できるスポーツ指導者を養成する「スポーツと健康コース」と、健康増進と福祉支援の連携と地域における福祉文化を構築する「福祉と健康コース」の2コース。堺市との相互連携を含めた地域貢献型学部の構築をめざす。